

Table with columns: 大会回数 (Tournament Number), 年度 (Year), 出場チーム (Participating Team), 成績 (Result), 対戦相手 (Opponent). It lists 100 tournaments from 1931 to 2021, detailing the progression of various schools and their achievements.

初出場の国見が1回戦で市船橋千葉(0)で快勝、後の「常勝連」の歴史的1勝となった。国見は勢いに乗って決勝まで勝ち上がった。



第65回 歴史的1勝

第63回 優勝旗が九州へ



島原商が23度目の出場初優勝。帝京(東京)との決勝は1-1のまま延長でも決着がつかず両校Vとなり、優勝旗が初めて九州に渡った=1985年1月8日

県勢100勝の軌跡

初白星は長崎師範

2年連続で東海大1回戦で初優勝を飾った。静岡との決勝に臨んだ国見。100年前の雪辱を果たした。



第66回 雪辱の初V

年末に行われた全国高校サッカー選手権。長崎代表の長崎総合科学大付は、県勢は100回大会で通算100勝の節目に到達した。戦前の第14回大会(1931年度)で長崎師範が初白星を飾ってから約90年。この間、島原商は第63回大会(84年度)で九州勢として初めて優勝旗を手中に収め、国見は戦後最多タイとなる6度の優勝と史上2番目に多い66勝を積み上げてきた。100勝の歴史を数値と写真で振り返る。(濱崎武、八田智佳子)

国見が県選抜除の特別推薦になった年、初の選手権大会に手をこまねていた。丸岡(福井)との初戦は4-1と打ち合った。



第69回 鎮西学院初出場

第71回 3度目の頂点

主将のMF三浦淳寛を擁して2年ぶり3度目の頂点に立った国見。決勝は山城(京都)を2-0で退けた。準々決勝の米子東(鳥取)戦の勝利で県勢通算50勝も達成した。



第80回 初の連覇

国見が決勝で岐阜工を3-1で下し、チーム初、戦後7校目となる連覇を遂げた。MF柴崎晃誠(手前左)が得点王に輝くなど前年を上回るチーム合計17ゴールを挙げた。



第79回 高校3冠達成

長崎日大が初出場。F.W深町浩の2得点で丸岡(福井)に逆転勝ちし、1回戦を突破した。



第99回 創成館初挑戦

近年、力をつけてきた創成館が初出場。初戦の学法石川(福島)戦は1-1からのPK戦で4-3と競り勝った。



第87回 長崎日大1勝

第82回 記録づくめの優勝

国見が決勝で筑波学園(福島)に6-0で大勝し戦後最多タイとなる6度目の優勝を飾った。F.W平山健太は史上初の2年連続得点王に輝き、選手権通算16得点、1大会最多得点(15得点)など記録を打ち立てた。



第100回 記念の勝利

長崎総合科学大付が2回戦で堀越(東京)に1-0で競り勝ち、県勢通算100勝に到達した。小瀬忠敏監督の不在で主将の責任感と意気込みが伝わった。

